

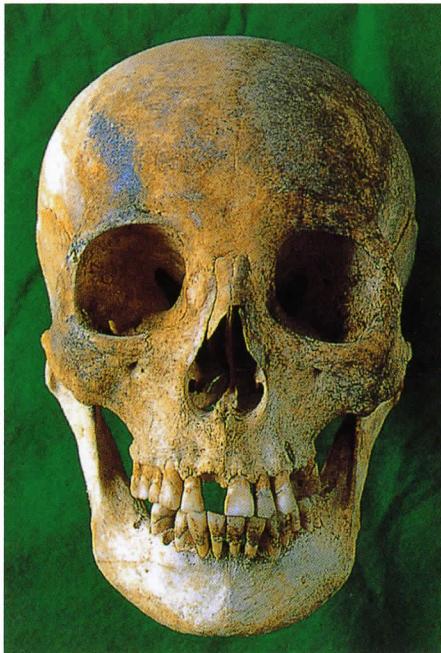
北部九州の弥生人 —— 渡来人とその末裔

ほぼ1万年余りも続いた縄文時代、日本列島には背が低く、いかつい顔立ちの縄文人たちがほぼ全域に渡って住み着いていました。発掘された彼らの遺骨の数も、既に数千体に上っています。ところが、今から約2000年余り前の弥生時代になると、そうした状況が一変します。それまでの日本列島では見られなかった、長身で、しかもひどく面長な、のっぺりとした顔つきの人骨が、累々と出土するようになります。他でもない、この北部九州においてです。

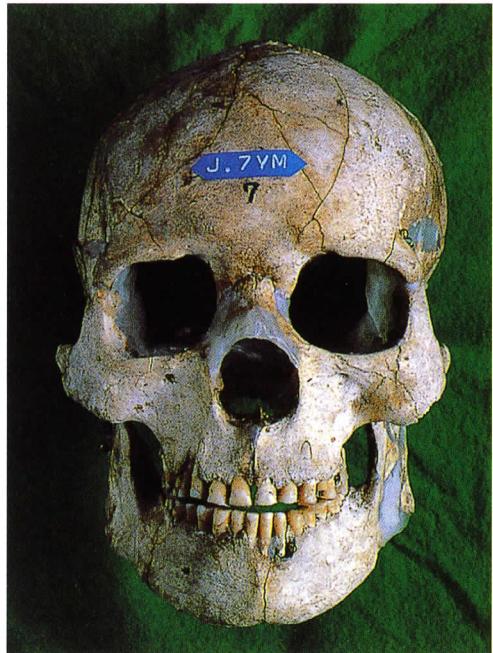
なぜ弥生時代になると、こんな見慣れぬ人々が、北部九州に住み着くようになったのか。その謎の裏に、実は明治の昔から延々と論議が続けられてきた日本人の起源に関する解答の一つが隠されていました。国内で見る

限りは特異な彼らが、朝鮮半島や中国大陆の古代人にそっくりだということが近年の研究でわかつてきました。つまり、この弥生人達はどうやら大陸を起源とする渡来人だったらしいのです。

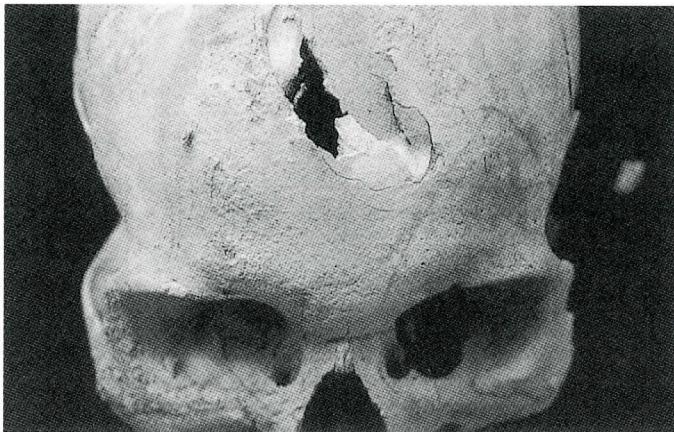
筑紫野市一帯から出土する弥生人骨はこうした「渡来系弥生人」の中でも、とくにその特徴が際立っています。先年、発掘の終わった隈・西小田遺跡からは400体を越す人骨が出土しましたが、彼らは近隣の弥生人に比べ、さらに面長で背も高かったことが分かりました。骨の特徴から判断して、渡来系の遺伝子が最も濃厚に入り込んでいる可能性があるということです。骨からその遺伝子、DNAを抽出して分析する研究も既に佐賀医科大学で始まっています。



隈・西小田遺跡弥生人



山鹿貝塚縄文人



◀上段：頭蓋を割られた弥生人
(隈・西小田遺跡)

▼中段：主成分分析

「渡来系弥生人」の中でも筑紫野市の弥生人は、縄文人からは最も遠い位置にきて、その形態的違いの大きさをあらわしている

▼下段：残存人骨男女比率

隈・西小田遺跡の首長墓が発見された第3地点では、ほとんど男性ばかりが埋葬されていた

一方、弥生時代のこの筑紫野一帯は、かなり騒然とした社会状況だったようです。隈・西小田遺跡や永岡遺跡からは、首を切られた遺骨や首だけの埋葬例、さらには頭を割られたり全身に傷を受けた人骨が集中して出土しています。しかも興味深いことに、その一方で目ざましい人口増加が起きていたことも、骨や甕棺の分析からわかつてきました。

北部九州に先進文化の花を咲かせた渡来人たちは、時には紛争に明け暮れながらも急速にその人口を増やし、中国地方から近畿、さらに東へと進出して行きました。我々現代日本人の体には、その渡来人達の遺伝子が確実に入り込んでいる、というのが弥生人研究からもたらされた現在の結論です。

(中橋孝博)

